所属：鶴岡工業高等専門学校　創造工学科　基盤教育グループ

研究タイトル：

平安期物語・和歌の表現の研究



氏名：	百井　順子　／　MOMOI　Junko	E-mail：	momoi@tsuruoka-nct.ac.jp
職名：	助教	学位：	博士（文学）
所属学会・協会：	中古文学会，和歌文学会，全国大学国語国文学会，日本文芸研究会，日本文学協会		

キーワード：	平安期，物語，和歌，表現
技術相談 提供可能技術：	・日本古典文学（特に平安期）の表現の分析、読解

国語

研究内容：平安期物語・和歌の表現の研究



文学作品の表現の魅力を紐解く

仮名文字が発達した平安期には、様々な文学作品が書かれました。最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』が編纂され、和歌文学が進展する一方で、物語文学が盛んに創作されました。

和歌や物語には、様々な状況の中における人の心の働きが豊かなことばで表現されています。その表現のおもしろさを解き明かすために、細部のことばの意味を考え、表現の仕組みの特質と意義を明らかにしたいと考えています。

【『伊勢物語』の研究】

『伊勢物語』は、歌と物語で構成された章段が125段ある作品です。書かれたことばは決して多くはなく、歴史や文化の面から解釈されることも少なくありません。もちろん、歴史や文化との関わりを考えることは大切ですが、細部のことばの意味を明らかにし、場面の状況、登場人物の心情を捉えることで、物語として創作された作品の表現の特質と意義、作品全体の仕組みが見えてきます。

これまでの研究では、東下り章段、西下り章段等について、その表現の特質と意義を究明しました。東下り章段には、都を離れようとする心情と離れたくない心情が相克する心の働きが表現されています。西下り章段の第60段には、一家を采配していた「家刀自」の堅実な暮らしぶり、切実な苦悩、「男」と「家刀自」の後悔と思慕の情が表現されています。

【『新撰和歌集』の研究】

『新撰和歌集』は、紀貫之が編纂した私撰集です。これまでの研究で、別れの歌と旅の歌を交互に配した巻第三「別旅」の構成の特質を究明しました。別れの歌は、今目の前にいる人との別れの辛さを、旅の歌は、今はもう会えない人を思い出して悲嘆する心の働きを詠んでいます。そうした違いがある一方、別れの歌と旅の歌に共通して詠まれているのは、対象への思慕の情です。別れと旅の歌を交互に配することで、その心情が循環するように構成されていると考えられます。

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	